

2017年1月4日

## 三菱樹脂社長 姥貝 卓美 2017年 年頭挨拶（要旨）

三菱樹脂株式会社

昨年は中国株価暴落とサーキットブレーカー発動、Brexit、トランプ米国大統領誕生と事前予測がごとく外れた世界政治・経済の大きなうねりの変化を経験する一年であった。一方、日本経済は、経済の好循環を確実に芽生えさせ、活性化出来るかを問われた一年だったが、景況の踊り場を抜け出せたとは言い難い状況が続いており、先の読み難い、「不確実性の大きな高まり」の中で2017年を迎えた。私たちはこうした世界経済や事業環境の変化の中にあって、市場動向に傾注し、マイナーチェンジを行い、影響を最小限に留める。昨年4月に始動した現中期経営計画「APTSIS20・Plus」では成長戦略を遂行する上での4本の大きな柱（指針）を掲げた。①高収益・高効率経営を遂行すること、②基幹製品群の事業拡大と成長の実現、③モノ造り力の強化、④海外市場・新市場の拡大を遂行していくこと。この4つの指針は、事業によっては優先順位や注力するウエイト付けは異なるが、今年も事業を推進していく上での確かな方向性を示している。

これまでも幾度か指摘してきたが、事業が健全に成長していくためには、企業として、各事業として、基礎体力や基礎問題解決力が基盤になければならない。事業の基礎体力とは、「事業構造がシンプル化出来ていて効率的で無駄のない事業体で従業員が生き生きと事業をしている」、「不都合なことがあれば、すぐに対処できる透明性のある運営」が出来ていることを指している。今皆さんは自分達の事業の強いそして競争優位な部分と、着手しなければいけない残された改革が何か、この二つの領域をはっきりと理解していると思う。事業に透明性が一段と加わることによって、改善しなければいけない領域が見えてくる。効率性という物差しと透明性のある事業運営が出来て、初めて踏み込んだ行動や戦略の実行が可能になる。これからは更に一段とアクセルを踏んで「成長を掴み取るという第二ステップ」に向かって自信を持って歩んで頂きたい。

二年位前から、将来需要の伸びが期待され成長が期待できる事業や、マーケットで評価されている強い事業群については、投資環境を見据えながら成長のための経営資源の投入を行っている。本年度を含めて、増強設備が計画通りに稼働することで、三菱樹脂グループの収益基盤はより強固になると考えている。

市場での存在感を今年も更に発揮していくために、以下の諸点を心に銘じて努力を続けて頂きたい。①常に市場の変化を敏感に感じ取ることに貪欲であること、②変化から逃げず、正面から対峙する基本スタンスを失わない、③事業の基盤は製造現場にあること：安全操業と環境配慮操業を実行する、④ダイバーシティ&ワークライフバランス活動の推進、健康経営への参画と浸透、⑤コンプライアンス遵守を徹底すること、⑥R&D部隊の一層の活性化

今年の干支は「丁酉」。安定する、果実が十分に熟した完熟状態という意味。「商売繁盛につながる年」でもあるそうだ。そんな年に是非したい。今春、私たち三菱樹脂グループは統合新社 三菱ケミカル（株）として、スタートする。今年の目標は、事業推進にあたって、常に前を見つめ、それぞれの持ち場で自信を持って、皆さんの「輝く未来」を創造していくことだ。皆さんの活躍を期待している。

以上

本件に関するお問合せ先  
(株)三菱ケミカルホールディングス 広報・IR室 電話：03-6748-7140